

バグダッド日誌(5月20日)

○指揮幕僚活動雑感

米軍の指揮・幕僚活動はトップ・ダウン形式であり、日本のそれはボトム・アップ式であると良く耳にする。なるほど、ここキャンプ・ヴィクトリーにおいても「米軍はトップ・ダウンだな。」と感じることが多々ある。もっとも象徴的に感じるのは、BUA(朝の指揮官報告)においてMNF-I司令官 ケーシー大將の質問に答えるのはMNC-I司令官 []である。[]が、具体的な数字を確認した場合でも即座に []が回答している。日本であれば担当が分厚い資料を確認して答えるであろうと感じるのだが...。この間、米軍幕僚の担当部署はどうしているかというと、「もうすでに報告しているから」と言わんばかりの態度に私には見えてしまう。

多国籍軍司令部において私が経験した「極めて限られた世界」での「限られた勤務期間」を通じたことで恐縮であるが、「米軍は約5〜10%程度のもの凄く優秀な人が、その他大勢を導いている。」ように感じる。日頃、米軍人とのないげない交流を通じて、日本では想像もできない人がある。これは良い意味でも、悪い意味でもある。優秀な数パーセントの人(大佐クラス以上・サーजन・メイジャー・クラスはほぼ100%)の立ち居振る舞いは素晴らしい、カリスマ的オーラを一瞬にして感じることができる。また、その他大勢の方は、おおよそ日本ではチョット...という仕事ぶり、得てしてこれらの方々の方が専断な態度をとっている...

トップ・ダウンとボトム・アップのどちらが優れているかと比べるつもりは毛頭ない、米国は多民族国家故の強みと弱みを持っており、日本も単一国家故の強みと弱みをあわせ持っている。このため、米国には米国の風土に応じた方法で、日本もまた風土に応じた最も効果的な方法で指揮幕僚活動を実施していると感じる。

「三人寄れば文殊の知恵」「和をもって尊しとなす」風土で育った私は、日本のやり方を大切にしつつ、米国式の良いところを学び、仕事の仕方を調和させながら勤務していきたいと感じている。

バスラLO日々業務報告(5月20日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [] [] (警戒態勢) : []
2 特記事項	(1) [] (2) [] []
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9総機統一会議 (4) 航空輸送調整等
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議出席 (3) 航空輸送調整等
5 その他(備考)	